



臨床糖尿病支援ネットワーク MANO a MANO



“mano a mano”とはスペイン語で“手から手へ”という意味です

薬剤師とアドボカシー活動

【当法人評議員】

大和調剤センター

森 貴幸 [薬剤師]

近年日本糖尿病学会と日本糖尿病協会においてアドボカシー活動について考えさせられる機会が多くなってきました。薬剤師としてアドボカシー活動を推進するためにスティグマを考えていくことが大切と考えます。そこでまず、アドボカシーとスティグマについておさらいしてみたいと思います。

アドボカシー【advocacy】;とは擁護、弁護、支持、主張、唱道、支援運動、弁護士業。

スティグマ【stigma】;社会における多数者の側が、自分たちとは異なる特徴をもつ個人や集団に押しつける否定的な評価。身体・性別・人種に関わるもの。と、インターネット辞書で引くと出てきます。

アドボカシー活動は支援運動活動であると思います。日本糖尿病学会、日本糖尿病協会合同委員会では、「社会における糖尿病の知識不足、誤ったイメージの拡散により、糖尿病をもつ人は『特定の属性に対して刻まれる負の烙印＝スティグマ』(社会的偏見による差別)にさらされています。スティグマを放置すると、糖尿病であることを周囲に隠す→適切な治療の機会損失→重症化→医療費増→社会保障を脅かす、という悪循環に陥り、個から社会全体のレベルまで、様々な影響を及ぼすこととなります。」とあります。

アドボカシー活動を知って考えてみると、自分自身の体験として1型糖尿病であることで受けたスティグマよりも、医療者であるにも関わらず患者さんに対してスティグマをしてしまっていた事実があることに気が付かされました。医療者であっても誰でもスティグマを理解していないと気が付かないうちにスティグマを起している可能性があります。

第19回西東京薬剤研修会[2023年度 西東京糖尿病療養指導プログラム]ではスティグマの払拭をすべく講演会を開きました。病院薬剤師、薬局薬剤師も他の職種も治療支援を行う際に知らずにスティグマを生み出している可能性があります。臨床糖尿病支援ネットワークでもこれからどんどんアドボカシー活動を支援して、スティグマを払拭して、より患者さんのためになる治療支援を行えるとうれしく思います。

薬剤師は日常業務が過酷な中ですが、患者さんの治療目標達成率に少しでも役に立てるような治療支援を行えるように努力していきたいと考えます。

読んで
単位を
獲得しよう

西東京糖尿病療養指導士(LCDE)は、更新のために5年間に於いて50単位を取得する必要があります。本法人会員は、会報「MANO a MANO」の本問題及び解答を読解された事を自己研修と見做し、**1年につき2単位**(5年間で10単位)を獲得できます。毎月、自分の知識を見直し、日々の療養指導にお役立てください。

(「問題」は、過去のLCDE認定試験に出題されたものより選出、一部改変しております。)

問題 ● 次の文章を読んで以下の質問に答えてください。

63歳、女性。罹病期間18年の2型糖尿病。近隣に大家族が在住。持効型溶解インスリンを1日1回自己注射し、ARBを朝1回内服。スーパーで週4回パート勤務し、自動車で5分の通勤。以前は週3回程度ジムに通っていたが、孫の世話が忙しく運動を中断。最近、孫に手がかかからなくなり、運動を再開しなければと思い始めている。

合併症:両足部の触覚が鈍麻、運動器の疼痛なし、増殖前網膜症、腎症第3期、6m歩行速度 1.0m/s

身体所見:身長 164cm、体重 68kg、血圧 153/90mmHg 脈拍 62拍/分(整)

検査所見:空腹時血糖 124mg/dL、HbA1c 7.3%、中性脂肪 199mg/dL、LDL-C 131mg/dL、HDL-C 41mg/dL、血清Cre 0.92mg/dL、eGFR 45.7mL/分/1.73m²、尿蛋白(+)、尿中アルブミン 306mg/gCr

この患者への運動療法の指導として誤っているのはどれか、1つ選べ。

1. 自転車で通勤する
2. 自身の体重を負荷とした下肢のレジスタンス運動を行う
3. エアロビクス教室へ参加する
4. 目標心拍数 100拍/分とする速歩を行う
5. 体幹と下肢のストレッチングを行う





第66回日本糖尿病学会年次学術集会

令和5年5月11日(木)～13日(土)

城山ホテル鹿児島 他

[当法人会員]

東京都立多摩総合医療センター

櫻田 麻耶 [医師]

第66回日本糖尿病学会年次学術集会は、鹿児島で現地開催がメインとなりました。鹿児島県鹿児島市の3つの会場で行われました。鹿児島での学会ということで学会テーマは「糖尿病学維新—つなぐ医療 拓く未来—」でした。

当院からは口演8、シンポジウム、糖尿病劇場で発表・参加しました。私も5月11日(木)午前中に宝山ホールで「小児科から成人内科に移行した糖尿病症例の検討」として、当院の糖尿病移行期医療について発表いたしました。さすが鹿児島、5月なのにすでに暑くて半袖がちょうどよい季節でした。会場に行く途中、路面電車の駅に糖尿病学会総会の旗がかかっており、学会歓迎ムードが盛り上がっておりました。木曜日の初日にも関わらず、朝から会場受付・ランチョンセミナー受付も長蛇の列で、大盛況でした。こうやって実際に現地に行くことは、久しぶりにお会いできた先生方とお話しでき、また面識がない先生方に直接ご挨拶してご縁をつなげられる貴重な機会となりました。

今回の学会では、小児・思春期糖尿病のセッションをメインに参加しました。私自身は成人内科医なので、周りが小児科の先生方ばかりでいろいろと学ばせていただきました。口演からいくつかご紹介させていただきます。

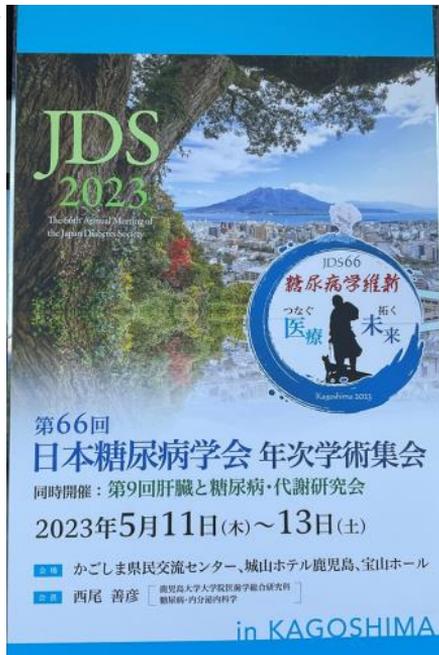
18歳未満の1型糖尿病患者が登録された、小児インスリン治療研究会第5コホート研究の中間発表がありました。第1期(2018年3月, 1155例)から第12期(2021年11月, 554例)までのインスリン治療状況を検討されました。インスリン投与方法は、インスリンポンプが37.4%(CSIIが多く、SAPは15%程度)、血糖モニタリング方法は間欠的スキャン連続血糖モニターが47.8%と増加。HbA1c<7.5%が3割、HbA1c9~10%が2割程度で、平均HbA1cは8.1%でCOVID-19流行期間も明らかな変化はなかったそうです。

経時的に重症低血糖が減少しており、日本糖尿病学会の小児科対象の低血糖に関する調査でも低血糖が起きやすいポイントは、夜間～早朝(学童期では日中の部活後に夜間おこしやすい)、CSII、摂食障害の合併などが挙げられ、ポンプトラブルへの教育が重要とのことでした。

小学校3年生までの低年齢小児1型糖尿病患者におけるインスリンポンプ療法で、スマートガードオート機能の有効性を検討した発表では、学期中や長期休暇の学校生活にあわせて、また平日か休日にあわせてオートモード機能のon/offをすることで有効に活用できる事例が紹介されていました。

また小児科におけるグルカゴン点鼻粉末製剤処方に関しての実態調査では、小児科は積極的に処方しているが、高校生以上の患者さんに対して内科は処方例が少ないとのことでした。小児科は親に対してグルカゴン点鼻を指導でき、小児慢性特定疾病医療費助成制度が使えることが利点のようです。内科では、医療費助成制度が20歳までで終わってしまうこと、ライフサイクルの変化で一人暮らしを始めるとグルカゴン点鼻をお願いできるような家族や同居者がいないこともあり、外来でまたどのように患者さんにお話ししていくか考えるきっかけになりました。質疑応答も含めて、小児科診療での実際の工夫なども伺うことができ、これからの診療に生かせるとても有意義な時間でした。

新型コロナウイルス感染症の流行以降、現地開催のみだけでなく、ライブ・オンデマンド開催とハイブリッド形式の学会開催が多くなりました。以前では時間が重なってしまえば聴講できなかった講演がオンデマンドで聴けるようになり、現地滞在が短くても帰り道にライブ配信を聞くことができるのはありがたいです。多様な参加が可能なハイブリッド開催は今後も続いてほしいと願っております。



令和5年5月11日～5月13日、鹿児島県鹿児島市において第66回日本糖尿病学会年次学術集会が開催されました。昨年同様、現地とオンラインによるハイブリッド開催でしたが、オンラインで配信されるものが少なくなりコロナ前の状況に近づきつつあると感じました。

私は運動療法に関わるトレーナーをしています。コロナ禍で対面での指導が難しくなりました。今回の学会では、映像媒体を使用した指導についての発表がいくつかあり、運動療法をどのように行っていけばよいのか工夫されていると感じました。

さて、私は一般口演の演者として現地参加をしました。その発表テーマは「当クリニック通院高齢糖尿病患者のサルコペニア分類における終末糖化産物(AGEs)との関連について」です。当院では、65歳以上の通院糖尿病患者に体力測定、体組成測定からのサルコペニア評価とあわせてAGEリーダーによる終末糖化産物(AGEs)の測定を行っています。近年、筋量や筋活動においてAGEsが影響を及ぼすとのことが散見されていることから、サルコペニアを正常、プレサルコペニア、ダイナペニア、サルコペニアの4つに分類し、AGEsの蓄積量と骨格筋量(SMI)、握力、歩行速度との関連を調査しました。結果、男女共にAGEsが高いと骨格筋量、握力、歩行速度のすべてが低下し、筋肉の量や筋肉の質の低下にAGEsが関与する可能性のあることが示唆されました。また、サルコペニア4分類のうち、筋量維持で筋力低下のダイナペニアでは、筋量が維持しているにも関わらず、握力や歩行速度が低下していることでADLにも影響を及ぼし、AGEsの蓄積量を高めている可能性が示されました。

病院ではこのような測定はなかなかできないとの声もいただき、個人クリニックだからこそ多くの通院患者に対しこのような測定ができるのだと改めて実感しました。今回の発表を基に、どのように運動療法に結びつけていけばいいのか課題も多々ありますが、日々考えながら患者さんに向き合い運動指導をしなくてはならないと思いました。

オンライン配信で発表を聴くこともいいのですが、現地参加をし、会場の活気ある雰囲気や実際に発表を聴くことでたくさんの刺激を受け、東京へ戻ってから今まで以上に良い療養指導、良い運動指導をしようと前向きな気持ちになりました。

来年はどのような開催形式となるのか気になりますが、どのような形式でもまた勉強させていただけることを楽しみにしております。



読んで
単位を
獲得しよう

答え **3** 下記の解説をよく読みましょう。

(問題は1ページにあります。)

解説

本症例は複数の合併症を有しており、安全な運動処方が必要である。増殖前網膜症では、眼科的治療を受け安定した場合のみ歩行程度の運動は許可される。腎症3期(A3G3a)では4-5METs程度の運動が望ましいことから、6METsに相当するエアロビクスの実施は誤りとなる。それ以下の運動強度でも、血圧上昇を避けるためバルサルバ型運動は行わないよう指導することが望ましい。



研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
 共催・後援事業
 その他

 第24回 西東京糖尿病療養指導士養成講座

 申込必要

日程：9月～12月

※日程が確定次第、ホームページにて掲載いたします

時間：19:00～20:30

参加方法：Zoomにて開催いたします

※視聴確認をしたい場合はこちら⇒<https://zoom.us/test> (Zoomミーティングテストページ)

受講料：当法人会員 12,000円 (全14回講義分として)

一般 20,000円 (全14回講義分として)

オン
ライン

定員：250名 (定員に達し次第締め切ります)

テキスト：「糖尿病療養指導ガイドブック 2023」

(日本糖尿病療養指導士認定機構発行 ㈱メディカルレビュー社発売 税込3,465円)

申込：当法人ホームページ <https://www.cad-net.jp/> より

申込方法の詳細は、以下のページにてご案内いたします

[トップページ](#) > 「重要なお知らせ」 > 「第24回西東京糖尿病療養指導士養成講座のご案内」

西東京糖尿病療養指導士・認定試験実施日：2024年2月11日(日) 予定

※試験の詳細については、講座期間中にご案内します

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468


 糖尿病災害対策委員会 第10回患者さん向けセミナー

 申込必要

テーマ：『いつ来てもおかしくない大災害！～糖尿病をもつ方の災害対策とは？～』

開催日：2023年8月26日(土) 14:30～16:00

場所：武蔵野スイングホール・レインボーサロン (JR中央線「武蔵境駅」下車 徒歩2分)

申込：FAXにてお申し込みください (8/24締切) FAX：042-322-7478

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

参加費
無料

 一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク 第75回例会

 申込必要

テーマ：『肥満症治療の最前線～薬物治療と外科治療の現状と未来～』

開催日：2023年9月1日(金) 19:20～21:00

参加方法：Zoomにて開催いたします

参加費：当法人会員 無料 / 一般 2,000円

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください (9/1締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：4単位

参加費
無料

オン
ライン

研究会等のセミナー・イベント情報

 主催事業
 共催・後援事業
 その他

 第22回糖尿病予防講演会

 申込不要

テーマ：『生活習慣を科学的に見直そう』

開催日：2023年9月2日（土）14:00～17:25

場所：武蔵野公会堂・ホール（JR中央線「吉祥寺駅」下車 徒歩2分）

問合せ：臨床糖尿病支援ネットワーク事務局 TEL：042-322-7468

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：3単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：1単位申請中

参加費
無料

 第14回 西東京糖尿病運動指導スキルアップセミナー

 申込必要

テーマ：『コロナ禍で知った糖尿病運動療法のニューノーマル』

開催日：2023年10月22日（日）8:30～17:00

場所：北里大学薬学部 2202大会議室(2号館)・体育館(アリーナ等)

(JR山手線「恵比寿駅」下車 徒歩20分 または 都営三田線「白金高輪駅」下車 徒歩13分)

参加費：当法人会員 6,000円 / 一般 8,000円 (いずれも昼食代込み)

申込：当法人ホームページの「セミナー・イベント情報」よりお申し込みください (10/8締切)

☆西東京糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位：10単位

☆日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<第2群>：2単位申請中

☆健康運動療法士及び健康運動実践指導者の登録更新に必要な必修単位<講義/実習>：計6.3単位申請中

事務局からのお知らせ



事務局へのお問い合わせは当法人ホームページで常時受付しております。ご返信にはお時間をいただく場合がございますが、順次対応させていただきます。お急ぎの方は平日の10:00～12:00/13:00～16:00にお電話くださいようお願いいたします。

お悩み解決

《マイページ Q&A》

Q.オンラインセミナー(※)を受講する際に必要な受講番号は、どこで確認できますか？

A.マイページ「お申し込み中の本法人セミナー」よりご確認ください。その他に、ミーティングID、パスコードも掲載しています。

開催日時	2021/07/28
受講番号	249
ミーティングID	11122223333
パスコード	123456

※本法人主催(本ホームページから申し込みをした)セミナーが、マイページに掲載されます

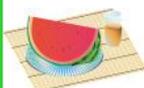
オンラインセミナーを受講の際に必要な情報は、こちらからご確認ください。



発行元

一般社団法人 臨床糖尿病支援ネットワーク事務局
〒185-0012
国分寺市本町2-23-5 ラフィネ込山No.3-802
TEL:042(322)7468 FAX:042(322)7478
https://www.cad-net.jp/ Email:info@cad-net.jp

編集後記



90歳目前にインスリン導入となったA氏。やりたくない気持ちとは裏腹に、超高齢と思えない鮮やかな指先の動き。指先を使う仕事をしていたか聞くと・・・理容師歴60年！お店をやめたものの顧客は未だ20名以上いるとか。語るうちに自信に満ちた表情に変わり、無事に注射終了。誰にも負けない強みをもつA氏に会い、まだまだ頑張らねばと思いました。
(広報委員 久保 麻衣子)



一般社団法人

臨床糖尿病支援ネットワーク

Clinical Assistance of Diabetes Network